

地域円卓会議 in 大宜味村

県内の島嶼地域と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える

実施報告書

日 時: 2016年2月4日(木) 18:00-20:30

場 所: 大宜味村役場 第2会議室

主 催: 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

ACTIVITY REPORT

【報告】若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議



■日 時:2016年2月4日(木)18:00-20:30

■場 所:大宜味村役場 第2会議室

■着席者数:7名 (論点提供者、司会、ファシリテーター含む) ■来場者数:46名 (行政・大学・企業・NPO・市民) ■主 催:国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

■協 力:公益財団法人みらいファンド沖縄、

NPO 法人まちなかわくわく研究所

■お問合せ:国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティ

キャンパス事業本部

<mark>論点提供 佐久川 紀亮 氏(大宜味村役場 企画観光課)</mark>

県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える-大宜味村編

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内5カ所(国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島)で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

3

佐久川 紀亮 大宜味村役場 企画観光課



金城 やす子 名桜大学 副学長

センターメンバー



金城 太輔 大宜味村商工会 経営指導員



外間 崇 琉球新報社 北部支社報道部 部長



清尾 雄大 名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康科学科 4年次

▶ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 大宜味村の人口は、現在 3,160 名。把握している人口のピーク時と比較して、約 1/3 に減少。
- 人口の男女比は、半々(男性:1,678名、女性1,555名)。
- 高齢化率は32%。他地域と比較して高い割合。
- 村内に民間団地は1件のみ、他は公営団地。
- 主な働き場所として、役場関係(80名)、福祉関係(189名)、農業関係がある。
- 農業関係の従事者の割合は21.3%と高い(県:4.5%)。
- 特産物として、シークヮーサーがある。
- 福祉関係の雇用者数・事業者数が増えている。村外利用者もいる。
- 商工会業者数は、村内に134社(内91会員)。
- 商工会業者の多くは小規模事業所。
- 村外に所有者がいて、仏壇のみの空き家・空き地がある。
- 村としては民間アパート誘致を積極的に進めている。
- 小学校・中学校の統廃合により、4校が空く。
- 名桜大学の学生は役 2,000 名。県内:県外の割合は 半々。200名が北部出身の学生。

事例の提供

- 住宅の問題の解決事例として、東村の定住作戦がある。 6年で32世帯が増加(出身15、外部17)。
- 空き家の問題の解決事例として、伊是名島では古民家 を活用し、田舎に住みたいニーズに応えている。
- 北部市町村の役場でも県外出身の人も結構いる。

視点の提供

- 商工会として、若者の創業の機運を盛り上げる。コディーネータとしての役割を担う。
- 商工会で地域活性事業として学生との関わりを持つ。
- 学生と商工会との商品開発コラボを行う。
- 商工会の青年部が復活しており、農業・福祉関係との 連携を目指したい。
- 住まいの創出は人が増えるベース。商売にもつながる。
- 若者は暮らしやすさが整えば(適度な仕事があれば)、 大宜味村にも残りたい。大宜味村の愛はある。
- 人口の流出を抑えること、流入移住を促すことの両方 のやり方が必要。
- 6 次産業として、目玉となる商材を考えていくため、 食と農と観光のつながりを図ることが必要である。
- 世界遺産があり、観光と結び付けていく必要がある。
- 新聞社として、伝える、自ら興す等、地域との複合連携が出来ると良い。
- 高齢者だけが増えていくことが良いのか?人が増えることの意味を考えたい。
- 家族(世帯)が増えていく必要があるのではないか。
- 地域を若い人がどう知っていくか。若い人がこの場所の良さをまずは知ってもらう。
- 若い人をどう呼び込むか。大宜味しかできないイベントづくり・体験プログラムをどうプロデュースしていくかが必要。
- 大学としてはきっかけづくりができる
- 廃校の有効活用。負の遺産ではない。
- やんばるのイメージを変える。

評価の提供

- 人が住みたくても、住む場所がない(次男・三男の住居がない)。
- 村外にも土地所有者が多く、住宅地を借りられない。 貸せない。
- 福祉施設が増加していて、高齢者の入居施設が増加している。その結果、高齢者が増加している。
- 村外との仕事の賃金の差があり、残ろうと思っても、 学生が残れない。
- 介護職員の給与が非常に少ない。若い人がなりたがらない。
- シークヮーサーを作っても収穫する担い手(後継者)がいない。また、売れない。
- 商工会の事業者は全体的に資金繰りに困っており、新 規雇用につながる事業の拡大ができていない。

▶ 今後のアプローチの方向性(提案)

- **知ってもらう** 学生へ早い段階から村の良さを情報発信。ヤンバルのイメージを変える。
- **住宅の確保** 住まいの創出は人が増えるベース。民間アパートの誘致。
- 多様な連携 行政・大学・商工会・農業者・学生・村民・報道等の多様な分野と連携。
- 廃校の活用 廃校の有効活用。負の遺産ではない。住宅の確保。研修施設等

■参加者によるサブセッション

「大宜味村に、若者にどう関わってもらうか?」(原文のまま)

- ・ シュノケーリングを継続して行える環境づくり。 ・ 段々畑復活!
- シークァーサー摘み体験ツアー。
- · 若い人が大宜味に来るイベントの開催。
- ・ 婚活パーティーもやってます。
- ・ まず来てもらうことに意味がある。
- ・ シークヮーサー (農産業) で稼げる。(価値を 上げる)→若者が定住、就職。
- ・ 世界遺産と関連づけて。
- ・ 大宜味ドリーム(アメリカンドリーム)、若者 が企業して成功→口コミ等で広まり同じよう な若者が増える。
- ・ 新築のアパートと素敵なパートナーがいれば 若者は住む(?)。
- ・ 特産品のシークヮーサーを活かして、大学生、 村外の人にも魅力を感じる。
- ・ プロジェクトアドベンチャー(1年生)を使って、 課題に対して地域の人々と関わっていく。アイ デアを出してもらう。
- ・ 色々な人に来てもらう。→知ってもらって→好 きになってもらう。
- ・ 大宜味村の特産品であるシークヮーサーは大 学生や別の地域の方からみても魅力がある。ど ういう風に活かしていけるか考えるには若い 人の考えと別の地域の意見を取り入れた方が 1111
- ・ 名桜大学にはプロジェクトアドベンチャーとい う取り組みがあるのでそれを利用すると良い。
- · 若者にどうやって知ってもらうか。
- · イベント等ではなく、体験型の企画を行う。
- 民泊→農業体験。
- ・ 介護学校の誘致(跡地利用)→学生(人口)の確・ 市町村枠をつくる(名桜大学の)。 保→デイケアーによる福祉(実施教育)。
- ・ 大宜味のふつうの日常体験できる。
- · 平均年齢 90 才と 20 才の合コン。
- 大宜味のエッジがきいた企画。
- ・ シークヮーサー風呂。

- ・ 廃校を大宜味だけでなく北部の超一流の変人 が集まったインキュベーション施設にして、イ ンターンを受け入れる。
- · 若者にアピールする。YouTube(自然)、GoPro+ 名桜大のイベント。
- ・ 口コミ効果を考えて若者のみならず、全ての年 齢層を呼び込む。
- 外から人々をウエルカムするようにする。
- 農業体験。
- ・ 大宜味を観光するツアーを組む。
- ・ 地域の伝統行事に関わってもらう。
- ・ 大宜味といえばここだというシンボル的な場 所をつくってデートスポットを作る。
- ・農作物の価値を高める。
- 商品開発(農作物を使って)。
- ・ 大宜味を知ってもらう。
- · 一度来てもらう。
- とどまってもらう場所。
- ・ 海を活かす(シュノーケリング体験)。
- 大学等とのコラボ。
- 宿泊施設が必要。
- 空き地をシェアハウスに!
- ガイド養成。
- ・ 行事(夏祭り、地域の行事)に関わらせる(ツア ーをつのる)。
- 地域に認めてもらうしくみ作り(役割作り)。
- ・ 住む場所の提供。
- 若い人にイベントをさせてツアー化にする(体 験づくり)。
- · 一貫教育(幼稚園~大学まで)。
- 若者が興味をもつイベント。
- ・ "おもしろい"というシカケがあれば人が来る。 それを上手に周知・広報すれば知る→お、おも ろうそうやんけ→行っちゃう? 等

若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

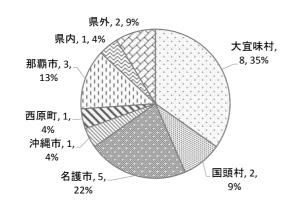
· 日 時: 2016年2月4日(土)18時~20時半

•場 所:大宜味村役場 第2会議室

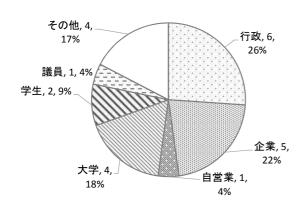
・着席者:7名(司会、記録含む)

・参加者: 46名 (アンケート回収23名、回収率50%)

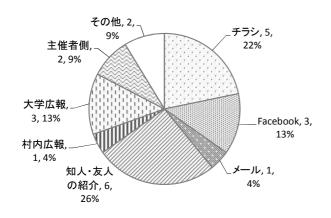
1. どちらから?



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均: 4.57 (5点中)

5.満足	4.概ね 満足	3.ふつう	2.あまり 満足し てない	1.不満足
13名	10名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

- ・議論は実りのあるものでした。一歩が踏み出せ そうな感じがあった。
- ・色々な分野・立場の人の意見・考えが聞けた。
- ・多くの人が参加してくれて良かった。
- ・大宜味村の現状について知ることが出来た。
- ・大宜味村の課題・解決の糸口が見えた。
- ・スタートアップの場なので雰囲気を作れてよかったのでは。
- ・サブセッションで初めての人と短時間ではあったが、意見交換ができた。
- ・司会及びスタッフの皆さんが各分野のパネラーの意見を深く引き出しまとめて頂いたこと。

6. 印象に残ったこと

- ・行政・商工会・大学・地域が一体となってやれ ることがあるような発言が良かった。
- ・地域の大学との連携が重要だと感じた。
- ・大学1~2年生へのアプローチが必要。
- ・商工会と大学生のコラボは面白いと思った。
- ・外からの刺激が必要。
- ・大宜味村でしか出来ないイベントを考える。
- ・定住という側面と人的投入・交流という視点
- ・廃校は地域資源(負の遺産ではない)。
- ・シークワーサーと段々畑のコンビネーション
- ・メディアと連携してイベントを企画。
- ・地域の行事をユーチューブ等で PR すること。
- やんばるのイメージを変える。
- ・子育てしやすい大宜味村。

等

(写真) 会場の様子











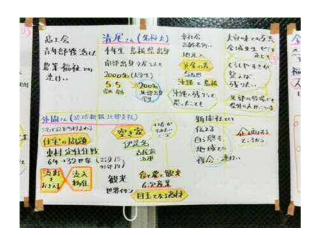








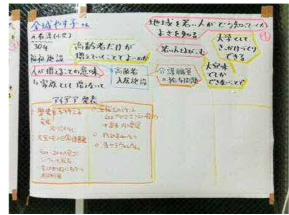
















テーマ

県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える -大宜味村編

論点提供者 佐久川 紀亮 氏(大宜味村役場 企画観光課)

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ (課題) を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。

企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の 解決をめざして議論します。

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所(大宜味村、国頭村(2/24)、久米島町(3/3)、石垣市(3/10)、宮古島市(3/11)) における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

2016年2月4日(木) 18:00-20:30 (受付開始: 17:30~)

会 場

大宜味村役場 第2会議室 沖縄県大宜味村字大兼久 157

分 多

どなたでも参加できます。

参加申込方法

希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ ご所属、ご連絡先(メールアドレス)を添えて、メール・FAX でお申し込みください。

e-mail: cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp TEL: 098-895-8019、FAX: 098-895-8185

- ■主 催 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
- ■協 力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく
- ■お問合せ 国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部(担当 安座間、大城、宮里 TEL. 098-895-8019)

県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所における 若者の定住と働き方を考える 地域円卓会議 開催のご案内

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

円卓会議とは

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ (課題) を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

テーマ

県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える -大宜味村編

<論点提供者>佐久川 紀亮 氏(大宜味村役場 企画観光課)

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内 5 カ所(国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島)で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

■タイムテーブル (予定)

18:00 オープニング ~あいさつ~

18:05 地域円卓会議について

18:10 【論点提供】「県内の北部地域の若者の定住と働き場所について考える-大宜味村編」

18:30 セッション I (兼出席者紹介)

19:20 サブセッション (会場全体で意見交換) 兼 休憩

19:50 セッション**Ⅱ** まとめ

20:30 終了予定

■着席者

- ·佐久川 紀亮 氏(大宜味村役場 企画観光課) 論点提供者
- ・金城 やす子 氏 (名桜大学 副学長)
- · 金城 太輔 氏 (大宜味村商工会 経営指導員)
- ·外間 崇 氏(琉球新報社 北部支社報道部 部長)
- ·清尾 雄大 氏(名桜大学人間健康学部4年次)

司会進行:平良 斗星氏(公益財団法人みらいファンド沖縄副理事長) 記録者:宮道 喜一氏 (NPO 法人まちなか研究所わくわく事務局長)

- ●開催日時 2016年2月4日 (木) 18:00-20:30 (受付開始:17:30~)
- ●会 場 大宜味村役場 第2会議室(沖縄県大宜味村字大兼久157)
- ●対 象 どなたでも参加できます。
- ●参加費 無料
- ●定 員 50名

参加申込方法

参加費は無料です。どなたでも、この円卓会議を会場でお聞きいただくことができます。 ご希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先(メー

e-mail:cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

FAX: 098-895-8185

ルアドレス)を添えて、メール・FAXでお申し込みください。

■主 催 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

■協 力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

■お問合せ 国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部

(担当 安座間、大城、宮里 TEL. 098-895-8019)

参加申込書

所属	<u>役職</u>
ご氏名	<u>-</u>
連絡先	